

2022年度  
電源 I 需給バランス調整力募集要綱



2022年9月  
四国電力送配電株式会社

## 目 次

第1章	はじめに	.....	1
第2章	注意事項	.....	2
第3章	用語の定義	.....	5
第4章	募集スケジュール	.....	1 2
第5章	募集概要	.....	1 4
第6章	応札方法	.....	2 1
第7章	評価および落札案件決定の方法	.....	2 4
第8章	契約条件	.....	2 6
第9章	その他	.....	3 0

## 第1章 はじめに

1. 2016年4月以降の電気事業におけるライセンス制（2022年4月より開始された特定卸供給事業（アグリゲータ）制度を含みます。）導入に伴い、各事業者がそれぞれに課された責務を履行していくことが求められます。
2. 四国電力送配電株式会社（以下「当社」といいます。）は、一般送配電事業者としての役割を果たすために、2023年度の実需給断面であらかじめ確保する調整力として34.5万kWを確保する必要があり、そのうち需給バランス調整を実施するための調整力を確保するため、2.5万kWの電源Ⅰ需給バランス調整力を入札により募集します。
3. 今回実施する入札においては、発電事業者等の事業予見性確保や需給バランス調整力の安定的な確保の観点から、長期契約（1年間）を前提としておりますが、確保した需給バランス調整力のトラブルや需要想定の見直し等の状況変化に応じて、随時、短期契約（1年未満）を前提とした追加募集を行なうことがあります。
4. 本要綱では、当社の募集する電源Ⅰ需給バランス調整力が満たすべき条件、評価方法等について説明します。  
落札後の権利義務関係等については、募集にあわせて公表する電源Ⅰ需給バランス調整力標準契約書を参照してください。
5. 応札者は、本要綱に記載の作成方法のとおり、入札書を作成してください。

## 第2章 注意事項

### 1. 一般注意事項

(1) 当社は、本要綱に定める募集概要・契約条件等にもとづき、安定的に継続して需給バランス調整力を提供できる事業者を入札により募集します。

入札によって手当される需給バランス調整力は、調整力のコスト低減に寄与することが期待されますので、応札者が入札書で明らかにする電源Ⅰ需給バランス調整力の評価にあたっては、入札価格が低いことが重要な要素となりますが、この経済的要素に加え、需給運用の弾力性等も重要な要素となります。

(2) 入札案件の優劣は、本要綱で定める評価方法に従って評価します。このためにも、応札者は入札書を作成する際には、本要綱に記載の作成方法に準拠して、入札書に不備や遺漏等がないよう十分注意してください。

(3) 入札案件の審査過程において、効率的な審査が出来るように、応札者は入札書を作成する際には、読みやすく分かりやすいものを作成してください。

(4) 応札者は、本要綱に定める諸条件および募集にあわせて公表する電源Ⅰ需給バランス調整力標準契約書の内容を全て了解のうえ、当社に入札書を提出してください。

(5) 落札者は、電源Ⅰ需給バランス調整力契約と、別途定める電源Ⅱ需給バランス調整力契約または電源Ⅱ周波数調整力契約を締結していただく必要があります。また、契約電源等が発電設備である場合、当社との間で当社託送供給等約款にもとづく発電量調整供給契約（発電量調整供給契約者と電源Ⅰ需給バランス調整力契約者とが同一であることは求めません。）が締結されていることが必要です。一方、契約電源等が DR を活用したものである場合、当社との間で当社託送供給等約款にもとづく接続供給契約（接続供給契約者と電源Ⅰ需給バランス調整力契約者とが同一であることは求めません。）が締結されていることが必要です。仮に電源Ⅱ需給バランス調整力契約または電源Ⅱ周波数調整力契約の締結ができない場合、電源Ⅰ需給バランス調整力契約の効力が発生されませんので十分注意してください。

(6) 応札者が、入札書提出後に入札の辞退を希望する場合は、すみやかに書面により当社まで申し出てください。一度入札辞退の意思を表明した場合は、再度選考の対象として復帰することはできませんので、あらかじめ了承願います。入札を辞退された場合は、すみやかに入札書を返却します。

(7) 落札者は、需給バランス調整力の提供に必要な電気事業法および関連法令

に定める届出等の手続きを実施し、提供期間の始期までに事業開始可能な状態としていただきます。

(8) 本要綱にもとづく電源 I 需給バランス調整力契約は、全て日本法に従って解釈され、法律上の効力が与えられるものとします。

(9) 応札者が入札書に記載する会社名には、正式名称を使用してください。応札者の事業主体は、日本国において法人格を有するものとします。

また、ジョイント・ベンチャー等のグループで応札することも可能です。この場合には、グループ各社が日本国において法人格を有するものとし、入札書において参加企業全ての会社名および所在地を明らかにするとともに、当社の窓口となる代表企業を明示していただきます。なお、全参加企業が連帯してプロジェクトの全責任を負うものとします。

以下のいずれかに該当する関係にある複数の者が本入札の応札を希望する場合は、原則として、そのうち一の者による応札またはジョイント・ベンチャー等としての応札としてください。なお、個別に応札する場合は、入札書（様式 1）の「9 資本関係または人的関係等のあるものとの事前調整等の有無」の記載をお願いします。

※本要綱は、独占禁止法に違反する談合行為を容認するものではありません。独占禁止法に触れるような行為のないように、応札者ご注意ください。

a 資本関係

- (a) 会社法第 2 条第 4 号の 2 に規定する親会社等と会社法第 2 条第 3 号の 2 に規定する子会社等の関係にある場合
- (b) 親会社等を同じくする子会社等同士の関係にある場合

b 人的関係

- (a) 一方の会社等の役員（株式会社の取締役（指名委員会等設置会社にあつては執行役）、持分会社（合名会社、合資会社もしくは合同会社をいいます。）の業務を執行する社員、組合の理事またはこれらに準ずる者をいいます。以下同じ。）が、他方の会社等の役員を現に兼ねている場合
- (b) 一方の会社等の役員が、他方の会社等の民事再生法第 64 条第 2 項または会社更生法第 67 条第 1 項の規定により選任された管財人（以下単に「管財人」といいます。）を現に兼ねている場合
- (c) 一方の会社等の管財人が、他方の会社等の管財人を現に兼ねている場合

c その他、上記 a または b と同視しうる関係

(10) 当社または落札者が第三者と合併、会社分割または電源 I 需給バランス調整力契約に関係のある部分を第三者へ譲渡するときは、あらかじめ相手方の承認を受けるものとします。なお、電源 I 需給バランス調整力契約承継の詳細な取扱いに

については、募集にあわせて公表する電源 I 需給バランス調整力標準契約書を参照してください。

(11) 応札に伴って発生する諸費用（本入札に係る費用，入札書作成に要する費用，電源 I 需給バランス調整力契約の交渉に要する費用等）は，全て応札者で負担していただきます。

(12) 入札書は日本語で作成してください。また，入札書で使用する通貨については円貨を使用してください。添付する書類等も全て日本文が正式なものとなります。レターや証明書等で原文が外国語である場合は，必ず原文を提出するとともに和訳を正式な書面として提出してください。

(13) 入札書提出後は，入札書の内容を変更することはできません。ページの差替え，補足説明資料の追加等も認められません。ただし，落札候補案件の選定にあたり，当社が提出を求めた場合については除きます。

(14) 契約希望者は 2023 年 10 月以降，インボイス制度が導入されるため，適格請求書発行事業者の登録が必要となります。

## 2. 守秘義務

応札者および当社は，入札を通じて知り得た相手方の入札案件に係る機密を，相手方の了解を得ることなく，第三者に漏らしてはならず，また自己の役員または従業員が相手方の機密を漏らさないようにしなければなりません。

ただし，当社は電気事業法およびその他法令にもとづく監督官庁等の報告要請があった場合，必要最小限の範囲で監督官庁へ入札情報の一部を提供できるものとなります。

## 3. 問合せ先

本要綱の内容に関し，個別の質問がある場合は，下記のお問い合わせ先より受け付けます。お問合せにあたっては，はじめに「電源 I 需給バランス調整力募集要綱に対する意見」と記入したうえで，ご意見・お問い合わせを記入ください。

なお，審査状況等に関するお問い合わせにはお答えできません。

当社お問い合わせ先（メールアドレス）：[aps-koubo-shikoku@yonden.co.jp](mailto:aps-koubo-shikoku@yonden.co.jp)

### 第3章 用語の定義

#### 1. 電源等分類

##### (1) 周波数調整力

需要ピーク時における供給力不足等に活用できる調整力のうち、周波数制御機能を提供することを必須とし、周波数制御ならびに需給バランス調整に活用される調整力をいいます。

##### (2) 需給バランス調整力

需要ピーク時における供給力不足等に活用できる調整力のうち、専ら需給バランス調整に活用される調整力をいいます。

##### (3) 電源 I

当社が常時確保する電源等をいいます。(このうち、周波数制御機能を当社に提供することを必須とするものを電源 I - a, 周波数制御機能を当社に提供することを必須としないものを電源 I - b, 厳気象時の需給調整対応に活用するものを電源 I' と区分します。)

##### (4) 電源 I 周波数調整力

電源 I - a の調整によって得られる調整力をいいます。

##### (5) 電源 I 需給バランス調整力

電源 I - b の調整によって得られる調整力をいいます。

##### (6) 電源 I' 厳気象対応調整力

当社があらかじめ確保するオンライン指令(ただし、簡易指令システムを用いたものを含みます。)で電力の供出ができる電源等とします。なお、厳気象時等の需給対応を主な目的として募集するため、周波数制御機能の具備は必須としないものとします。

##### (7) 電源 II

小売電気事業者の供給力等と一般送配電事業者の調整力の相乗りとなる電源等をいいます。ゲートクローズ(発電事業者および小売電気事業者による受給計画の提出締め切り(実受給の開始時刻の1時間前)のことをいいます。)以降余力がある場合に当社が周波数制御・需給バランス調整のために利用することが可能なものをいいます。(このうち、周波数制御機能を当社に提供することを必須とするものを電源 II - a, 周波数制御機能を当社に提供することを必須とせず、需給バランス調整に活用するものを電源 II - b と区分します。)

(8) 電源Ⅱ周波数調整力

電源Ⅱ - a の調整によって得られる調整力をいいます。

(9) 電源Ⅱ需給バランス調整力

電源Ⅱ - b の調整によって得られる調整力をいいます。

(10) 電源Ⅱ' 低速需給バランス調整力

オンライン指令（ただし、簡易指令システムを用いたものを含みます。）で上げまたは下げ調整できる電源等（周波数制御機能の当社への提供を期待されないもの）の調整によって得られる調整力をいいます。

(11) DR（ディマンドリスポンス）

本要綱においては、周波数制御・需給バランス調整のために、需要家側で電力の使用を抑制、もしくは増加することをいいます。（Demand Response の略）

(12) ネガワット

本要綱においては、需要家の需要抑制等による順潮流（一般送配電事業者が運用する電力系統から需要家の構内側へ向かう電力の流れ）の減少のことをいいます。

(13) ポジワット

本要綱においては、発電設備の増出力による逆潮流（発電設備等の設置者の構内から一般送配電事業者が運用する電力系統側へ向かう電力の流れ）の増加のことをいいます。

(14) アグリゲーション

本要綱においては、複数の需要家の需要抑制または発電設備の増出力を束ねることをいいます。

(15) アグリゲータ

単独または複数のDRを実施できる需要家を集約し、それらに対する負荷制御（増または減）量・期間等を指令し、制御を実行させることにより、総計として、当社の指令に応じ、本要綱に定める要件を満たす周波数制御・需給バランス調整を実現する事業者（その事業者が調整力提供に当たって使用する設備を含みます。）をいいます。なお、需要家自らがアグリゲータとなることも可能です。

(16) 調整電源

電源Ⅰ、Ⅰ' など一般送配電事業者と調整力に関する契約を締結し、一般送配電事業者がオンライン指令（ただし、簡易指令システムを用いたものを含みます。）で出力調整できる電源等のことをいいます。

(17) 非調整電源

電源Ⅲなど調整電源に該当しない電源等のことをいいます。

(18) 発電バラnsingグループ（発電BG）

単独または複数の発電所を保有する発電者の集まりで組成されるグループのことで、インバランス算定の単位となります。対象発電機（発電所）毎に単独の発電バラnsingグループを設定する必要があります。

2. 契約・料金関連

(1) 応札者

本要綱にもとづき入札書を提出される事業者をいいます。

(2) 落札者

本要綱にもとづき評価した結果、当社が電源Ⅰ需給バラns調整力契約ならびに電源Ⅱ需給バラns調整力契約（または電源Ⅱ周波数調整力契約）を締結することを決定した応札者をいいます。

(3) 契約電源等

発電設備を活用した入札案件である場合は発電設備等を、DRを活用した入札案件である場合は負荷設備等をいいます。

(4) 電源Ⅰ需給バラns調整力契約電力

電源Ⅰ需給バラns調整力として契約する電源等との契約kWで、原則として常時、当社の指令に従い運転継続時間にわたって供出可能な出力をいいます。なお、DRを活用した応札者の場合、当社託送供給等約款における損失率を考慮したものとします。

(5) 電源Ⅰ需給バラns調整力契約

当社が需給バラns調整のために調整力として活用することを目的とし、専用線オンライン指令で調整できる電源等（ただし、周波数制御機能を当社に提供することを必須としないもの）を対象に、当該契約kWの確保・待機とその対価としての基本料金の支払いについて締結する契約をいいます。

(6) 電源Ⅱ周波数調整力契約

当社が周波数維持のために調整力として活用することを目的とし、専用線オンライン指令で調整できる電源Ⅰおよび電源Ⅱ（周波数制御機能を有しているものに限ります。）と締結する契約をいいます。

(7) 電源Ⅱ需給バランス調整力契約

当社が需給バランス調整のために調整力として活用することを目的とし、専用線オンライン指令で調整できる電源等（ただし、周波数制御機能を当社に提供することを必須としないもの）を対象に、当社の指令に従った調整力の提供とその対価としての従量料金の支払いについて締結する契約をいいます。

(8) 運転継続時間

契約電源等が、電源Ⅰ需給バランス調整力契約電力で運転を継続できる時間をいいます。

(9) 運転継続可能時間

契約電源等に当社が運転継続を求める時間をいいます。

(10) 電源Ⅰ需給バランス調整力提供可能時間

一日（毎日0時～24時をいいます。）のうち、本要綱にて定める、当社の指令に従った運転を行なうことが可能な時間数をいいます。（以降、本要綱における時間は24時間表記を使用します。）

(11) 年間停止可能日数

契約電源等が補修等のために、ペナルティなしで停止できる年間の日数をいいます。

(12) 計画外停止日数

契約電源等において、事故あるいは計画になかった補修等によって停止に至った日数をいいます。ただし、当社が起因となった停止の場合は、当社と合意した日数を除きます。

(13) 計画停止日数（補修停止日数）

契約電源等において、各断面（年間、月間、週間）で補修等のためにあらかじめ計画を策定して停止する日数をいいます。

(14) 基本料金

契約電源等が、契約期間において、契約kWを供出するために必要な費用への対価をいいます。

(15) 従量料金

当社指令により、契約電源等が起動並列・運転することによりkWhを供出するために必要な費用への対価をいいます。

(16) 申出単価

従量料金を算定する際に利用する単価をいいます。燃料費等の情勢を反映するため、契約者から定期的に提出していただきます。当社指令の種類に準じて、上げ調整単価 (V1)、下げ調整単価 (V2)、起動単価 (V3)、その他単価 (V4) の4つの単価があります。

(17) 上げ調整単価 (V1)

当社が契約電源等に対して、出力増指令したことにより増加した電気の電力量に乗じて支払う 1 kWh あたりの単価をいいます。

(18) 下げ調整単価 (V2)

当社が契約電源等に対して、出力減指令したことにより減少した電気の電力量に乗じて受け取る 1 kWh あたりの単価をいいます。

(19) 起動単価 (V3)

当社が契約電源等に対して指令したことにより、追加で電源等を停止状態から、系統並列させた（以下「起動」といいます。）または計画していた起動を回避した回数に応じて、それぞれ必要または不要となった起動費用の単価をいいます。

ただし、契約電源等が、DR を活用したものである場合には、当該費用について考慮しません。

(20) その他単価 (V4)

需給ひっ迫等非常時に、当社が契約電源等に対して、定格出力以上の出力指令をした場合等、V1 および V3 で設定できない事由に適用する単価をいいます。（本要綱に定める契約時に個別に設定します。）

ただし、契約電源等が、DR を活用したものである場合には、当該費用について考慮しません。

(20) 需給調整市場システム

需給調整市場において  $\Delta$  kW（一般送配電事業者が、調整電源を調達した量で調整できる状態で確保し、必要なときに指令できる権利）を取引するためのシステムをいいます。

### 3. 需給関連

(1) H3 需要

ある月における毎日の最大電力（正時から次の正時までの 1 時間平均）を上位から 3 日とり、平均したものをいいます。

(2) 広域的な需給バランス調整

各一般送配電事業者が算出しているエリアの予備率ではなく、地域間連系線

の混雑がない範囲の広域的な予備率を踏まえた需給バランスの調整のことをいいます。

(3) 高負荷期

電気の使用量（需要）が大きくなる時期をいいます。本要綱では7月16日～9月15日をいいます。

(4) 需給ひっ迫

想定される需要に対して、供給力が不足する状態のことをいいます。

4. 発電等機能関連

(1) ブラックスタート

当社の供給区域において広範囲な停電が発生した場合、電力系統からの電力供給を受けずに発電機の起動が可能な機能を活用して発電機の起動を行なうことをいいます。

(2) 専用線オンライン指令

当社が供給区域の需給バランス調整を行なうため、中央給電指令所から、専用線を用いた通信伝送ルートを通じて、直接的に、需給バランス調整機能を具備した電源等へ出力増を指令することをいいます。

なお、中央給電指令所～契約電源等間の通信設備等が必要となります。

また、本要綱における当社からの指令は、当社中央給電指令所からの指令のことをいいます。

(3) ポンプアップ（揚水運転）

揚水発電所において、発電電動機を用い、水車（タービン）をポンプとして利用して、下池から上池へ水を汲み上げることをいいます。

(4) 系統連系技術要件

当社が維持・運用する電力系統に接続する電源に求める技術的な要件をいいます。

(5) 需給バランス調整機能

電源等が接続する電力系統の需給バランス調整を目的に、出力を増減させるために必要な機能をいいます。

(6) ガバナフリー運転

電源等の回転速度を負荷の変動のいかんにかかわらず、一定の回転速度を保つように、動力である蒸気および水量を自動的に調整する装置である調速機（ガバナ）により、系統周波数の変化に追従して出力を増減させる運転をいいます。

(7) LFC

定常時における電力系統の周波数および連系線の電力潮流を規定値に維持するため、負荷変動に起因する周波数変化量や連系線電力変化量などを検出し、電源等の出力を自動制御することをいいます。(Load Frequency Control の略, AFC (Automatic Frequency Control の略) と同義)

(8) ELD

電力系統の安定かつ合理的運用を目的に、各電源等に最も経済的になるよう負荷配分を行なう制御をいいます。(Economic Load Dispatching の略, EDC (Economic Load Dispatching Control の略) と同義)

(9) DSS

需給運用の一環として、1日の間に起動・停止を行なうことをいいます。(Daily Start up and Shut down もしくは Daily Start Stop の略)

(10) DPC

当社から電源等に対して運転基準出力を指令し、電源等の出力を制御することをいいます。(Dispatching Power Control の略, OTM (Order Telemeter の略) と同義)

(11) OP 運転

契約者と事前に合意のうえ、定格出力を超えて発電することをいいます。(Over Power の略)

(12) 調整力ベースライン

託送供給等約款、エネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネスに関するガイドライン(資源エネルギー庁策定)における標準ベースライン等、DRを実施する際、その出力増減幅の基準となる負荷消費電力または一定期間の負荷消費電力量に属地 TSO の託送供給等約款における損失率を考慮したものをいいます。

## 第4章 募集スケジュール

1. 2022年度における入札公表から、落札者との電源I需給バランス調整力契約締結までのスケジュールは以下のとおりです。ただし、やむを得ない事由によりスケジュールが変更となる場合もあります。



日程	ステップ	説明
7/1～ 8/1	①募集の公表および募集要綱案への意見募集 (RFC)	当社は、次年度分の電源I需給バランス調整力を調達するための「電源I需給バランス調整力募集要綱案」を策定し、入札募集内容を公表するとともに、要綱案の仕様・評価方法等について、意見募集を行ないます。 応札をご検討の方で、電源I需給バランス調整力募集要綱案を参照のうえ、各項目に対する意見がある場合は、理由と併せて意見募集期間中にお問い合わせ先に意見を提出してください。
8/2～ 8/31	②募集要綱の確定	当社は、意見募集でいただいた意見や関係機関の検討状況等を反映した「電源I需給バランス調整力募集要綱」を確定いたします。
9/1～ 10/31	③入札募集	当社は、入札募集を開始しますので、応札者は、本要綱に記載の応札方法のとおり、入札書を作成し、10/31までに応札してください。
11/1～ 12/8	④落札候補者の選定	当社は、応札者の応札に対して本要綱で定める評価方法に従って評価し、落札候補者を選定します。
12/9	⑤落札候補者決定、結果公表	当社は、落札候補者決定後、入札募集手続きの結果を公表します。
12/10～	⑥契約協議	当社は、落札候補者と電源I需給バランス調整力契約に関わる協議を開始し、契約します。

【参考】電源Ⅱ周波数調整力および電源Ⅱ需給バランス調整力の募集スケジュール  
※電源Ⅱ周波数調整力または電源Ⅱ需給バランス調整力募集要綱をご参照  
ください。



## 第5章 募集概要

1. 募集内容および電源Ⅰ需給バランス調整力が満たすべき要件は以下のとおりです。

(1) 募集規模

合計 2.5 万 kW といたします。

(2) 電源Ⅰ需給バランス調整力提供期間

電源Ⅰ需給バランス調整力提供期間は、2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの 1 年間とします。

(3) 対象電源等

a 当社の系統に連系する電源等（連系線を経由して当社系統に接続するものを除く）で、当社から専用線オンライン指令（簡易指令システムを用いたものを含みます。）で出力調整可能な電源等といたします。

b 使用する燃料については、特に指定しませんが、電源Ⅰ需給バランス調整力提供期間を通じて安定して調達できることが条件となります。

c 応札時点で営業運転を開始していない電源等、および当社と専用線オンライン信号（簡易指令システムを用いたものを含みます。）の送受信を開始していない電源等の場合、電源Ⅰ需給バランス調整力提供期間開始日までに電源等の試運転や必要な対応工事・試験が完了していることが必要です。また、電源Ⅰ需給バランス調整力契約において、計量器の取り付け・取り替え等の工事が必要な場合、契約期間開始日までに必要な対応工事・試験が完了していることが必要です。なお、営業運転開始日が遅延する場合は、契約締結日の見直しの対象となる場合がございますので、別途協議させていただきます。

(4) 入札単位

入札は、発電設備を活用して応札される場合は、原則として発電機を特定して容量単位（kW）で実施していただきます。

DR を活用して応札される場合は、本要綱に定める要件を満たすことのできるアグリゲータが、容量単位（kW）で入札していただきます。

応札いただく契約電力は、設備容量（発電機であれば定格電力、DR 設備であれば需要抑制により供出可能な電力）の範囲内においてのみ有効といたします。応札後に設備容量を超過していたことが明らかとなった場合は、当該応札を落札評価対象から除外いたします。

また、別途締結する電源Ⅱ需給バランス調整力契約書（またはこれに替わって締結する電源Ⅱ周波数調整力契約書）は、原則として、発電機単位またはアグリゲータ単位で契約締結いたします。

複数の応札者が同一の設備を用いて応札される場合も同様の扱いとし、当該設

備に対する応札 kW の合計値が、当該設備の設備容量を超過していた場合は、当該設備を用い応札した全応札者に対して当該設備を落札評価対象から除外いたします。

なお、様式 3-3 で、当該応札案件において当該設備（または需要家）の重複のおそれがある場合、当該設備（または需要家）を用いて応札された全応札者に対し、その旨を通知し、当該設備（または需要家）の応札 kW の妥当性を確認いたします。

当社からの通知の翌日から起算して当社 5 営業日以内に回答がない場合、または、当該設備（または需要家）の重複に係る確認の結果、当該設備（または需要家）の応札 kW が設備容量以内で明確に区別・区分できない場合、応札案件評価においては当該設備（または需要家）を除外します。応札者は、その旨を十分にご理解の上、追加資料の提出や上記内容を需要家に周知して理解・承諾させること等、必要な対応をお願いします。

#### (5) 他の調整力募集要綱への入札の取扱い

a 電源 I 需給バランス調整力公募に応札する契約電源等と同一の契約電源等を用いて、電源 I 周波数調整力および電源 I' 廠気象対応調整力の公募に入札することも可能としますが、その場合の取扱いは以下のとおりといたします。

(a) 各調整力の募集に全部または一部重複する容量をもとに入札（以下「重複入札」といいます。）された場合

- ・同一調整力公募への重複入札は認められません。
- ・電源 I 周波数調整力、電源 I 需給バランス調整力、電源 I' 廠気象対応調整力の順に落札案件決定を行なうこととし、電源 I 周波数調整力の落札案件となった場合、電源 I 需給バランス調整力および電源 I' 廠気象対応調整力における落札案件決定の対象からは除外します。

(b) 各調整力の募集に重複しない容量をもとに入札（以下「複数入札」といいます。）をされた場合

- ・同一調整力公募への複数入札は認められません。
- ・複数入札された場合、各調整力においてそれぞれ落札案件決定を行なうものとします。この場合、各契約で定める調整力の提供に支障が生じることがないように、それぞれの契約電力を設定していただきます。

b 応札者は、それぞれの入札が、重複入札の対象か、複数入札の対象かを応札時に明確にさせていただきます。（応札時の明記無く、同一契約電源等から複数の調整力への応札がなされている場合、落札案件決定が出来ませんので、当該契約電源等に係る全ての応札を無効とさせていただきます。）

c 経済的な調整力確保の観点から、電源 I 周波数調整力の入札案件のうち、第 7 章における審査の結果、落選となり、かつ電源 I 需給バランス調整力または電源 I' 廠気象対応調整力との重複入札の対象となっていない案件については、

特段の申し出がない限り、引き続き電源 I 需給バランス調整力または電源 I' 廠気象対応調整力の対象として、審査させていただきます。

<具体例>

5 分間での出力増減可能な（電源 I 周波数調整力の募集要件を満たす）容量が 20,000kW、15 分間での出力増可能な（電源 I 需給バランス調整力の募集要件を満たす）容量が 60,000kW である契約電源等の場合、

○電源 I 周波数調整力の公募に 20,000kW、電源 I 需給バランス調整力の公募に 60,000kW の重複入札は可能。

→ 電源 I 周波数調整力の落札者となった場合、電源 I 需給バランス調整力の落札案件決定からは除外されます。

○電源 I 周波数調整力の公募に 20,000kW、電源 I 需給バランス調整力の公募に 40,000kW の複数入札は可能。

→ それぞれにおいて落札案件決定の対象とし、落札者となることが可能です。

●電源 I 周波数調整力の公募に 20,000kW、電源 I 需給バランス調整力の公募に 60,000kW の複数入札は不可。

→ 応札時点で、それぞれの調整力の公募要件を満たさないことから、それぞれの入札については、無効として取り扱います。

(6) 契約電力

契約電力は、15 分以内に出力増が可能な量と設定いたします。

(7) 出力調整幅

a 当社からの供出指令に対して 15 分以内に調整可能な出力は指令方法毎に以下のとおりであることが必要です。

・専用線オンライン（簡易指令システムを用いたものを除きます。）5,000kW 以上

・簡易指令システム（取引規程（需給調整市場）の通信設備に関する要件を満たすもの）を利用したオンライン 1,000kW 以上

b 最低申込量は、専用線オンライン（簡易指令システムを用いたものを除きます。）での契約申込みの場合は、5,000kW（1 kW 単位）となります。簡易指令システム（取引規程（需給調整市場）の通信設備に関する要件を満たすもの）を利用したオンラインでの契約申込みの場合は、1,000kW（1 kW 単位）となります。

2. 当社からの専用線オンライン指令（簡易指令システム（取引規程（需給調整市場）の通信設備に関する要件を満たすもの）を用いたものを含みます。）で制御可能と

するために必要な設備要件は、原則として、以下のとおりです。

(1) 設備要件

a 需給バランス調整機能

応札していただく電源等については、需給バランス調整のため、下記の機能を具備していただきます。

(a) DPC (運転基準出力制御機能)

当社中央給電指令所からの出力指令に、電源等出力を自動追従させる機能。

b 需給バランス調整機能の詳細

具体的な電源等に求める性能は以下のとおりです。ただし、系統の電源構成の状況等、必要に応じて別途協議を行なうことがあります。また、設備要件を満たさない場合も応札可能ですが、下記項目の最低出力については、非価格評価項目での減点評価とします。

	GT および GTCC 火力	その他火力
DPC 変化速度 <sup>※1</sup>	5%/分以上 (定格出力基準)	1%/分以上 (定格出力基準)
最低出力 <sup>※2</sup>	50%以下 DSS 機能具備 <sup>※3</sup>	30%以下

※1 定格出力付近のオーバーシュート防止や低出力帯での安全運転により上記条件を満たせない場合は、別途協議いたします。

※2 気化ガス (boil off gas) 処理などにより最低出力を満たせない場合には、別途協議いたします。

※3 発電設備を活用して応札する場合、DSS 運転は、発電機解列から並列まで8時間以内で可能なこととします。

火力発電設備以外においては、火力発電設備と同等程度の機能を有していただくものとし、必要に応じて別途協議を行なうことといたします。

c 信号

応札していただく電源等については、需給バランス調整機能に必要な信号を受信する機能および、必要な信号を送信する機能を具備していただきます。

当該機能については、電力制御システムに該当するため、情報セキュリティ対策として「電力制御システムセキュリティガイドライン」(改定の際には速やかに最新版を参照および最新版に準拠していただくものとします。)へ準ずる必要があります。加えて、当社の電力制御システムに接続することになるため、原則として、当社が定めるセキュリティ要件に従っていただきます。

- (a) 専用線オンライン（簡易指令システムを用いたものを除きます。）での契約申込みの場合
  - ア 受信信号
    - (ア) DPC 指令値
    - (イ) DPC 運転指令
    - (ウ) 運転可能出力帯（バンド）指令
  - イ 送信信号
    - (ア) 現在出力
    - (イ) DPC 使用/除外
    - (ウ) 運転可能出力帯（バンド）状態
- (b) 簡易指令システムを利用したオンラインでの契約申込みの場合
  - ア 受信信号
    - (ア) 運転指令および出力指令または出力変化量指令
  - イ 送信信号
    - (ア) 現在出力または供出可能量
    - (イ) 需給バランス調整機能故障

なお、当該機能について、契約者は電力システムのセキュリティ設計に準拠、連携した対策が必要となるため、経済産業省および独立行政法人情報処理推進機構[IPA]が定める「エネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネスに関するサイバーセキュリティガイドライン」のセキュリティ要件に準拠した対策が必要となります（改定の際には速やかに最新版を参照および最新版に準拠いただくものといたします。）。

通信仕様については、OpenADR 2.0b に準拠いたします。

OpenADR 2.0 Profile Specification B Profile (Rev1.0) およびダイヤモンドリスpons・インタフェース仕様書第 1.1 版を参照してください。ただし、「簡易指令システム」において、電力系統への影響軽減の観点から、同一の伝送媒体および送受信装置に接続する契約設備から供出される電力の合計が 100 万 kW 以下になるように（複数の伝送媒体および送受信装置に分割する等）していただく必要があります。

3. 電源 I 需給バランス調整力が満たすべき運用要件等は、原則として、以下のとおりとします。

(1) 運用要件

a 15 分以内に出力増可能

あらかじめ定める電源等の定期点検等（出力一定作業、作業等による LFC 機能のロックを含む）や、週間計画以降で契約者が電源 I 需給バランス調整力を提供可能な代替電源等を提示し、当社が差し替えを認めた場合の期間を除き、

常時、当社からの専用線オンライン指令（取引規程（需給調整市場）の通信設備に関する要件を満たすもの）を用いたものを含みます。）により、15分以内に電源Ⅰ需給バランス調整力契約電力の出力増が可能であることが必要です。

b 原則7時間提供可能

- (a) 原則として、電源Ⅰ需給バランス調整力契約電力相当で、連続7時間にわたり当社の指令に従った運転継続が可能であることが必要です。
- (b) 電源Ⅰ需給バランス調整力契約電力相当で連続運転可能な時間が7時間に満たないものは、所定の計算方法で算定して落札案件決定過程で評価いたします。

c 定期点検、補修作業時期調整の応諾

- (a) 作業等による計画停止の時期は、原則として高負荷期を避けて計画していただきます。また、他の契約電源等の作業との重複等を避けるため、当社が定期点検、補修作業時期の調整を希望する場合、これに応じていただきます。
- (b) 作業等による電源等の計画停止が、年間58日を超える場合、所定の計算方法で算定して落札案件決定過程で評価いたします。

d トラブル対応

不具合の発生時には、すみやかに当社へ連絡のうえ、遅滞なく復旧できるよう努めていただきます。

(2) その他

a 技術的信頼性

- (a) 応札していただく電源等については、発電事業者であれば発電実績を有すること、DR事業者であればDR実績（DR実証試験による実績を含む）を有すること、またはそれぞれの実績を有する者の技術支援等により、電源Ⅰ需給バランス調整力の供出を継続的に行なううえでの技術的信頼性を確保することとしていただきます。
- (b) 設備要件、運用要件を満たしていることを確認するために、当社から以下の対応を求められた場合は、その求めに応じていただきます。
  - ア 発電機等の試験成績書の写し等、電源等の性能を証明する書類等の提出。
  - イ 当社からの専用線オンライン指令（簡易指令システムを用いたものを除きます。）による性能確認試験の実施。
  - ウ 現地調査および現地試験。
  - エ その他、当社が必要と考える対応。

b 電源等が準拠すべき基準

応札していただく電源等については、電気事業法、環境関連諸法令等、発電事業に関連する諸法令等を遵守していただきます。

4. アグリゲータが電源 I 需給バランス調整力契約を希望される場合は、次の要件を満たしていただきます。

(1) アグリゲータが当社指令に応じて電源 I 需給バランス調整力を提供すること。

(2) アグリゲータが供出する電源 I 需給バランス調整力が専用線オンライン（簡易指令システムを用いたものを除きます。）の場合 5,000kW 以上、簡易指令システム（取引規程（需給調整市場）の通信設備に関する要件を満たすもの）を利用したオンラインの場合 1,000kW 以上であり、かつ、アグリゲータが複数の需要家を束ねて電源 I 需給バランス調整力を供出するときは、需要家ごとの調整量が 1kW 以上であって、次のいずれにも該当すること。

a 調整力の安定かつ適正な供出を確保するための適切な需給管理体制および情報管理体制を確立し、実施および維持することができること。

b 需要家の保護の観点から適切な情報管理体制を確立し、実施および維持できること。

c 需要家と電力需給に関する契約等を締結している小売電気事業者等が供給力を確保するよう、当該小売電気事業者等とアグリゲータとの間で、適切な契約がなされていること。

(3) 需要者に係る接続送電サービスまたは臨時接続送電サービスが電灯定額接続送電サービスまたは電灯臨時定額接続送電サービスもしくは動力臨時定額接続送電サービスでないこと。

(4) 電源 I 需給バランス調整力の算定上、需要場所が当社託送供給等約款 29(計量) (3) (技術上、経済上やむをえない場合等特別の事情があつて、計量器を取り付けない事業者等) に該当しないこと。

(5) アグリゲータが、需要家に当社の託送供給等約款における需要者に関する事項を遵守させ、かつ、需要家が当該約款における需要者に関する事項を遵守する旨の承諾をすること。

## 第6章 応札方法

1. 応札者は、以下のとおり、入札書を募集期間内に2部（本書1部、写し1部）提出してください。提出された入札書（写し含む）は返却しませんので、あらかじめ了承願います。

なお、入札書類および印鑑証明書は電子データでの提出は認められませんが、(1) a (i) 供出設備に関する情報がわかる書類（添付書類）について、例えば地点数が多い入札案件などで添付書類が膨大となる場合は、入札前に当社へ事前相談の上当社が認めた場合のみ、電子データでの提出を可能とします。

### (1) 入札書の提出

#### a 提出書類

入札書類（様式1～様式7）および添付書類

入札書の概要は以下のとおりです。

- (a) 入札書（様式1）
- (b) 応札者の概要（様式2）
- (c) 電源等の仕様（様式3-1, 3-2, 3-3）
- (d) 周波数制御・需給バランス調整機能（様式4）
- (e) 電源等の主要運用値・起動停止条件（様式5-1, 5-2, 5-3）
- (f) 電源等の運転実績について（様式6）
- (g) 運用条件に関わる事項（様式7）
- (h) 入札書に押捺した印章の印鑑証明書
- (i) 供出設備に関する情報がわかる書類（添付書類）

※供出設備に関する情報がわかる書類の詳細については入札書様式3-1, 3-2, 3-3をご確認ください。

※入札書および添付書類において使用する言語は日本語、通貨は日本円としていただきます。

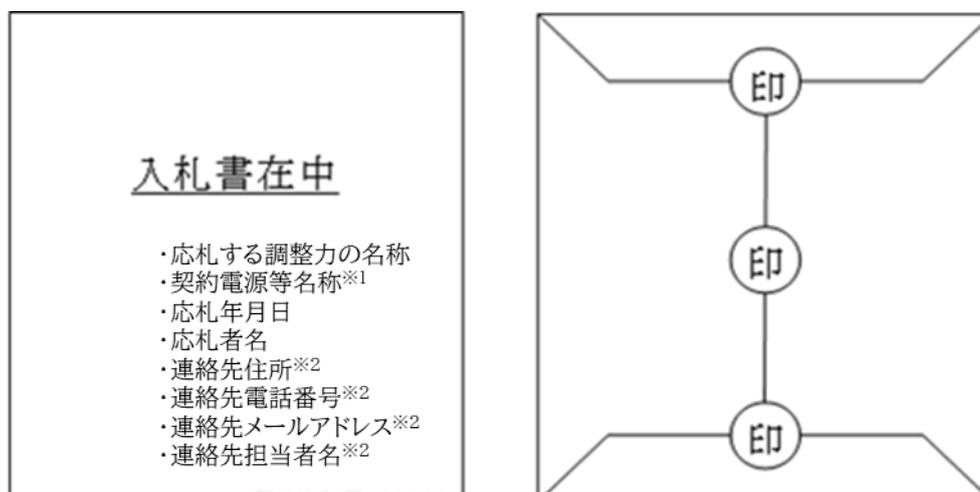
※消費税等相当額は、外税方式によりお支払いいたしますので、基本料金に含めないでください。

※公租公課における事業税相当額については、以下のとおり取り扱います。

- ・ 応札者が収入割を含む場合は、料金支払い時に事業税相当額（収入割に相当する金額に限る。）を加算いたしますので、基本料金に事業税相当額を含めないでください。
- ・ 応札者が収入割を含まない場合は、料金支払い時に事業税相当額を加算いたしませんので、基本料金に事業税相当額を含めてください。

b 提出方法

入札書類は部単位にまとめ、一式を、封緘、封印のうえ、持参してください。  
入札書類を提出する場合の封筒は、下図のようにしてください。



※1 同一のアグリゲータが複数の案件を応札される場合は、それぞれの識別できる名称をつけてください。

(例) ○○A, ○○B (○○アグリ A, ○○アグリ B)

※2 入札内容の確認や落札案件の選定結果通知等に使用する連絡先を記載してください。

c 提出場所

高松市丸の内2番5号

四国電力送配電株式会社 系統運用部 給電グループ

d 募集期間

2022年9月1日(木)～2022年10月31日(月)

(a) 受付時間は、土・日・祝日を除く平日の10時～12時および13時～16時とさせていただきます。

(b) 提出手続きを円滑に進めるため、お手数をおかけいたしますが、ご提出の際には事前に当社までご連絡をお願いします。

<連絡先>

四国電力送配電株式会社 系統運用部 給電グループ

電話：(087) 802-6350 (代表回線)

e 入札を無効とするもの

(a) 記名捺印のないもの

(b) 提出書類に虚偽の内容があったもの

(2) その他留意事項

- a 当社は、2022年10月31日（月）16時以降に、入札書を開封いたします。
- b 提出書類については、開札後、当社からの求めに応じて電子データの提出に応じていただきます。

2. 郵送で応札する場合、以下の点に留意の上、第6章1.(1)cに記載の提出場所へ郵送してください。なお、郵送の際は添付書類も含めて郵送してください。一部のみ郵送いただいた入札書は無効とさせていただきます。

- (1) 入札書は封緘、封印をした入札書一式を別の封筒に入れ、郵送してください。封筒の表面に宛先に加えて「入札書在中」と記載してください。
- (2) 一般書留または簡易書留で郵送してください。
- (3) 郵送での応札の場合、募集期間中の必着となるように郵送してください。提出期限日の消印有効ではありませんのでご注意ください。
  - ※「必着」とは、入札書一式が募集期間中の受付時間内に担当部署に到達していることを指します。
  - ※期限を過ぎて到着した入札書は受理しません。
  - ※郵便事故等により入札書が提出期限までに到達しなかった場合であっても異議を申し立てることはできません。
- (4) 郵送で応札する場合であっても事前に当社までご連絡をお願いします。

## 第7章 評価および落札案件決定の方法

1. 応札された案件が満たすべき要件に適合しているかを、入札書、添付書類をもとに確認いたします。
2. 本要綱第2章の注意事項を守り、第5章で定める要件に適合している入札案件を評価対象とします。
3. 以下の評価方法により、落札案件を決定します。

### 〔ステップ1〕 価格要素評価点の算定

価格要素評価配点は95点とします。

入札案件の中で最も安価な入札価格[円/kW]（以下「基準入札価格」といいます。）を基準として、次式のとおり、入札価格[円/kW]に運転継続時間、年間停止計画日数を考慮して価格要素評価点（小数点以下第1位を四捨五入いたします。）を算定します。

#### 価格要素評価点

$$\begin{aligned} &= \frac{\text{基準入札価格}}{\text{入札価格}} \times \frac{\text{運転継続時間}^{\ast 1}}{\text{運転継続可能時間（7時間）}} \\ &\times \frac{365 \text{ 日} - \text{年間停止計画日数}^{\ast 2}}{365 \text{ 日} - \text{年間停止可能日数（58日）}} \\ &\times \frac{\text{電源 I 需給バランス調整力提供可能時間数}}{24 \text{ 時間}} \\ &\times \text{価格要素評価配点（95点）} \end{aligned}$$

※1 運転継続時間が7時間を超過する場合は、7時間とする

※2 年間停止計画日数が58日未満の場合は、58日とする

### 〔ステップ2〕 非価格要素評価点の算定

非価格要素配点は、基礎点を2点、加点側最大3点、減点側最大-2点とし、最大5点とします。

次の非価格要素について評価を行い、非価格要素評価点を算定します。

#### 〔加点側〕

- ・並列時間が短い(指令から並列まで5分以内)もの：+1点（加点項目1）。
- ・再並列までの時間が短い(再並列まで1時間以内)もの：+1点（加点項目2）。
- ・ブラックスタート機能を有するもの：+1点（加点項目3）。

#### [減点側]

- ・最低出力が設備要件を満たしていないもの：－2点（減点項目1）。

#### [ステップ3] 総合評価点の算定

ステップ1で算定した価格要素評価点とステップ2で算定した非価格要素評価点の合計を総合評価点とし、総合評価点が高い入札案件から順位を決定します。なお、総合評価点が高同点の場合は、価格要素評価点が高い入札案件を評価順位の上位とします。

なお、順位決定において、価格要素評価点为非価格要素評価点を下回る応札者があった場合、経済的要素での適正な評価を行う観点から、以下の方法により応札者の順位を決定します。

- (1) 総合評価点が高い応札者を評価順位1位とし、当該案件を除く応札者において、ステップ1の価格要素評価点の再算定(基準入札価格の補正)を行い、非価格要素評価点との合計を総合評価点とし、総合評価点が高い応札者から評価順位2位以降の順位を決定します。
- (2) 上記の「基準入札価格の補正」後も価格要素評価点为非価格要素評価点を下回る応札者があった場合は、「基準入札価格の補正」を繰り返し、総合評価点が高い応札者から順位を決定します。

#### [ステップ4] 落札案件の決定

ステップ3で決定した評価順位の上位の入札案件から応札量を累計し、募集容量に達するまでの入札案件を落札案件として選定、募集容量に達した場合には、その時点の量を落札量として落札案件を決定します。ただし、運転継続時間が運転継続可能時間（7時間）未満の場合は応札量を運転継続可能時間で除して運転継続時間に乗じた値を、また、年間停止計画日数が年間停止可能日数（58日）を超過する場合は応札量を「365日－年間停止可能日数」で除して「365日－年間停止計画日数」に乗じた値を、応札量として見做します。

#### 4. 落札者決定後の手続き

落札者決定後、全ての応札者に結果をお知らせいたします。ただし、部分落札となった落札者は、落札者の判断により辞退することが可能です。この場合、落札にならなかった入札案件のうち、上位の入札案件を新たな落札案件として決定します。

当社と電源I需給バランス調整力契約の締結の協議が調った落札者は、当社と電源I需給バランス調整力契約書を締結していただきます。

## 第8章 契約条件

1. 電源 I 需給バランス調整力契約書における主たる契約条件は、以下のとおりです。

### (1) 契約期間

電源 I 需給バランス調整力契約期間は、2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの 1 年間とします。

### (2) 基本料金

- a 基本料金 (= 入札価格 (円/kW) に電源 I 需給バランス調整力契約電力を乗じた額) を 12 で除して月毎に分けて支払う (翌月払い) ものとします。
- b 端数は、年度末の 3 月分で調整するものとします。
- c ブラックスタート機能を提供することについて、当社と合意した場合は、その機能維持にかかる費用を当社が負担します。

### (3) 従量料金

当社指令に従って運転したことに伴う料金については、別途契約する電源 II バランス調整力契約または電源 II 周波数調整力契約にもとづき精算するものとします。

※ (2) (3) について、消費税等相当額は、外税方式によりお支払いいたします。また、契約者の事業税に収入割を含む場合、料金支払い時に事業税相当額を加算いたします。

一方、当社が支払いを受ける場合は、料金支払い時に、消費税等相当額ならびに事業税相当額を加算していただきます。

### (4) 契約解除

- a 契約者または当社が、電源 I 需給バランス調整力契約に定める規定に違反した場合、契約者または当社は違反した相手方に対して、書面をもって電源 I 需給バランス調整力契約の履行を催告するものとします。
- b 前項の催告を行なった後、30 日を経過しても相手方が電源 I 需給バランス調整力契約を履行しなかった場合、契約者または当社は、その相手方の責に帰すべき事由として、電源 I 需給バランス調整力契約を解除することができるものとします。
- c 契約の解除によって損害が発生する場合、その責めに帰すべきものは相手方に対し、損害賠償の責を負うことといたします。

- d 契約者または当社が、電源Ⅰ需給バランス調整力契約に定める規定に違反し、その履行が将来にわたって客観的に不可能となった場合、または次の項目に該当する場合、契約者または当社は、違反または該当した相手方に対して何らの催告を要することなく、電源Ⅰ需給バランス調整力契約を解除することができます。
- (a) 破産手続開始，民事再生手続開始，会社更生手続開始，特別清算開始等の申立てがあった場合
  - (b) 強制執行，差押，仮差押，競売等の申立てがあった場合
  - (c) 手形交換所から取引停止処分を受けた場合
  - (d) 公租公課の滞納処分を受けた場合
- e 契約者または当社が締結する電源Ⅱ需給バランス調整力契約（または、これに替わって締結する電源Ⅱ周波数調整力契約）が解約または解除された場合、同一期日をもって、電源Ⅰ需給バランス調整力契約も解約または解除されるものとします。

#### (5) 目的外活用の禁止

契約電源等のうち、電源Ⅰ需給バランス調整力契約電力分については、あらかじめ定める定期点検等の期間を除き、常時、当社の指令に従った運転および待機が必要であるため、当社の承諾を得た場合を除き、当社への電源Ⅰ需給バランス調整力提供の目的以外に活用しないこととします。

※ただし、アグリゲータが、本要綱にもとづき締結する電源Ⅰ需給バランス調整力契約における電源Ⅰ需給バランス調整力とは別に、供給力を小売電気事業者に提供することを否定するものではありません。しかし、小売電気事業者への供給力提供中であっても、電源Ⅰ需給バランス調整力は当社からの指令に応じて供出可能であること、および、小売電気事業者への供給力と当社への調整力は、重複することなく区分されたそれぞれの容量を準備いただくことが必要です。なお、その場合は、応札時に、その旨を申し出ていただきます。

#### (6) 運用要件の遵守

契約者は、契約電源等について本要綱第5章に定める運用要件および電源Ⅰ需給バランス調整力契約書における運用要件を満たし、法令順守または公衆安全確保等のやむを得ない事由がある場合を除き、当社の指令に従っていただきます。

#### (7) 停止計画

- a 契約者は、当社が定める期日までに契約電源等の停止計画の案を当社に提出していただきます。

- b 他の契約電源等の停止計画との重複を避けるためなど、当社が停止時期の変更を希望した場合、停止計画の調整に応じていただきます。

#### (8) 停止日数

- a 契約電源等の設備トラブルや定期点検等、当社の責とならない事由で電源 I 需給バランス調整力の全部または一部を当社に提供できなくなった日(停電割戻料金を適用した日や、天変地異等やむを得ない事由による場合を除く)を、原則として、超過停止割戻料金の算定に用いる停止日数とします。
- b 停止日数には、出力一定作業や、作業等による DPC・LFC 機能のロックを含みます。これらは、作業停電伝票にて実績を確認するため、該当する場合は作業停電伝票を発行していただきます。
- c 前日 12 時まで電源 I 需給バランス調整力を供出可能な代替電源等(本要綱にて定める要件を満たし、別途、当社と電源 II 需給バランス調整力契約または電源 II 周波数調整力契約を締結していることが必要です。)を当社に提示し、当社が差替えを認めた場合は、停止日数から除外することとします。
- d 設備トラブルによらず指令に追従できなかった場合の取扱いについて別途協議させていただくことがあります。

#### (9) ペナルティ

##### a 停電割戻料金

- (a) 契約電源等の設備トラブルや計画外の補修等、当社の責とならない事由で電源 I 需給バランス調整力の全部または一部を当社に提供できなくなった場合、停電割戻料金を算定し、翌月の基本料金と相殺処理するものとします。(詳細は電源 I 需給バランス調整力契約書(またはその付帯文書)にて取り決めます。)

##### (b) 停電割戻料金の算定式

停電割戻料金

$$= \text{停電割戻対象時間} \times 1.5$$

× 基本料金の 1 時間相当額

- ※ただし、契約電力の一部でも供出可能(代替電源等による供出を含む)の申し出があり、当社がそれを認めた場合は、停電割戻料金算定上の停電割戻対象時間について、以下の算出式により修正したうえで合計いたします。

修正後の停電割戻対象時間

$$= \text{修正前の停電割戻対象時間}$$

$$\times (\text{電源 I 需給バランス調整力契約電力} - \text{当該時間における平均供出電力}) \\ \div \text{電源 I 需給バランス調整力契約電力}$$

b 超過停止割戻料金

停止日数（計画停止＋計画外停止，但し年間の停止日数が年間計画停止日数を下回った場合は年間計画停止日数を停止日数とみなします）が年間停止可能日数(58日)を超過した場合，超過した日数について超過停止割戻料金を算定して基本料金と相殺処理するものとし，超過が発生した翌月の基本料金に反映するものとします。（詳細は電源Ⅰ需給バランス調整力契約書（またはその付帯文書）にて取り決めます。）。

・超過停止割戻料金の算定式

超過停止割戻料金

＝（停止日数－年間停止可能日数）÷（年度暦日数－年間停止可能日数）

× 基本料金

※ただし，契約電力の一部でも供出可能（代替電源等による供出を含む）の申し出があり，当社がそれを認めた場合は，超過停止割戻料金算定上の停止日数について，以下の算出式により修正したうえで合計いたします。

修正後の停止日数

＝修正前の停止日数

×（電源Ⅰ需給バランス調整力契約電力－当該期間における平均供出電力）  
÷ 電源Ⅰ需給バランス調整力契約電力

## 第9章 その他

### 1. 機能の確認・試験について

(1) 電源 I 需給バランス調整力契約の締結にあたり，満たすべき設備要件，運用要件を満たしていることを確認するために，当社から以下の対応を求められた場合，落札候補者または契約者はその求めに応じていただきます。

- a 発電機等の試験成績書の写し等，電源等の性能を証明する書類等の提出。
- b 当社からの専用線オンライン指令による性能確認試験の実施（簡易指令システム（取引規程（需給調整市場）の通信設備に関する要件を満たすもの）を用いたものを含みます。）
- c 現地調査および現地試験。
- d その他，当社が必要と考える対応。

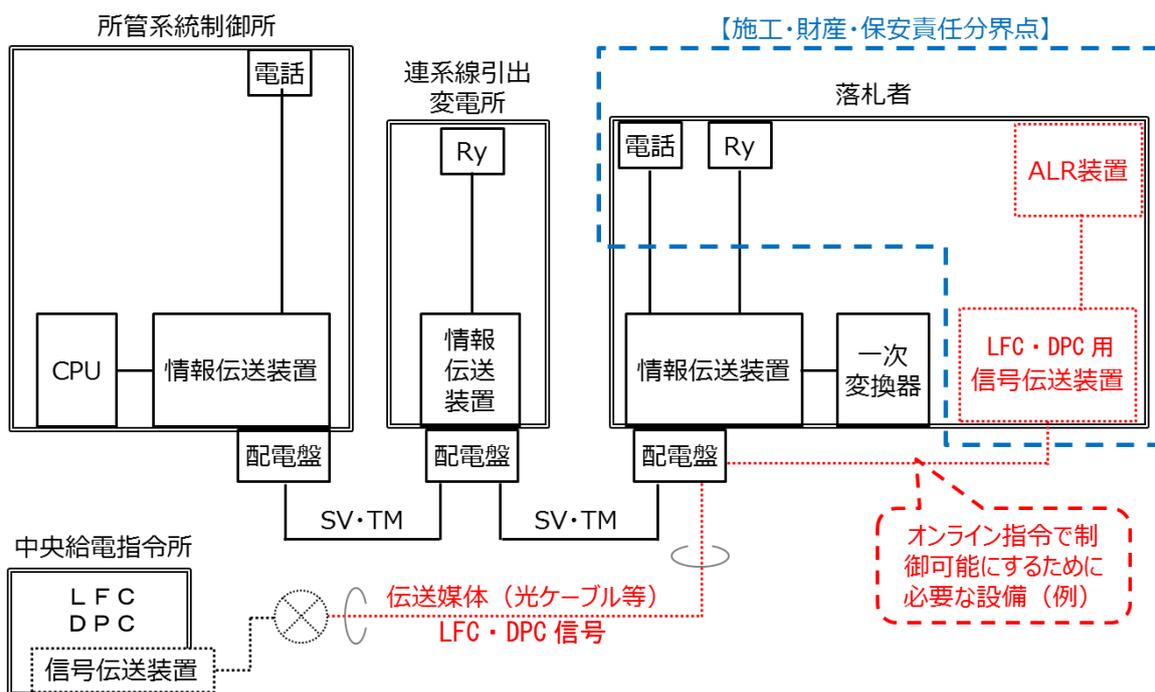
以下に各機能の確認・試験内容例をかかげます。

機能	試験内容（例）
DPC 機能 （運転基準出力制御方式）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電源等出力を変化させ，発電端または送電端出力の平均出力変化速度を計測し，出力変化速度が規定値以上であること。</li> <li>・現地での出力設定および DPC による当社中央給電指令所との対向試験を実施。</li> </ul>
給電情報自動伝送	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社中央給電指令所との対向試験を実施。</li> </ul>
起動時間 （並列～定格出力到達）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起動指令，ボイラ点火，タービン起動，並列および定格出力に至るまでの各時間を計測する。</li> <li>・DSS，週末停止など停止時間の違う場合に分けて，時間を計測する。</li> </ul>
上記以外で系統連系技術要件に定める機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電源等の性能を証明する書類等の提出で確認する。</li> </ul>

2. オンライン指令（簡易指令システム（取引規程（需給調整市場）の通信設備に関する要件を満たすもの）を用いたものを含みます。）で制御可能にするための設備について

- (1) 本要綱に定める技術要件を満たすために必要となる，当社からのオンライン指令（簡易指令システム（取引規程（需給調整市場）の通信設備に関する要件を満たすもの）を用いたものを含みます。）で制御可能にするための設備などは，契約者の費用負担にて設置して頂きます。また，当社中央給電指令所との間で情報や信号の送受信を行う通信設備については，信頼度確保の観点から，原則として複ルート化して頂きます。通信設備の財産・保安責任分界点の標準的な例を以下に示しますので参照してください。
- (2) 費用負担の範囲や負担額，工事の施行区分等，詳細については協議させていただきますので四国電力送配電株式会社 業務部 託送サービスセンターへご相談ください。

（発電設備を活用した契約希望者の設備例（専用線オンライン（監視指令システムを用いたものを除きます。）の場合）



(契約希望者の設備例 (簡易指令システムの場合))

